

令和8年度第1回 「しがweb アンケートプラス調査」

（県内向け調査）の結果について

1 調査の目的

滋賀県内にお住まいの方を対象として、新しい動物保護管理センターのあり方についての意識やニーズを把握し、今後の施設整備や運営の検討に活用するための基礎資料とする。

2 調査の概要

- (1) 調査対象 滋賀県内在住の満18歳以上の男女
- (2) 標本数 500人
- (3) 調査方法 インターネットを利用し、パソコン、スマホ等により回答するweb調査
- (4) 調査期間 令和8年7月7日（火）～令和8年7月15日（水）
- (5) 調査会社 株式会社ITグローバルブレイン

3 調査項目

新しい動物保護管理センターのあり方について

4 主な調査結果 ※詳細は別添集計表（エクセル表）を参照ください。

- Q1： 現在ペットを「飼っている」人は20.0%であった。一方、「昔、飼っていたことがある」（35.2%）、「飼ったことがない」（44.8%）を合わせると、現在ペットを飼っていない人は約8割（80.0%）を占めた。
- Q2： ペットが人に与える良い影響として、「生活に潤いや安らぎが生まれる」（36.7%）が最も多く、次いで「命の大切さを学ぶ教育効果がある」（24.0%）、「孤独感の軽減につながる」（21.0%）となった。
- Q3： 滋賀県動物保護管理センターについて、「その存在を知らなかった」（57.9%）が最も多く、「場所や名前は知っているが、施設訪問や情報閲覧の経験はない」（23.8%）が続いた。一方、「実際に訪問したことがある」人は9.6%にとどまった。
- Q4： 動物保護管理センターのイメージとして、「迷子や捨てられた動物を保護する場所」（33.8%）が最も多く、次いで「保護された動物と新しい飼い主を引き合わせる場所」（22.5%）、「あまりよく知らない／なじみがない」（17.1%）となった。
- Q5： 今後重点を置くべき取組として、「保護された動物と新しい飼い主を引き合わせる活動」（30.2%）、「捨てられる動物を減らすための、飼い主への教育や啓発」（30.1%）がほぼ同率で最も多かった。
- Q6： 新しい動物保護管理センターに求める施設・設備として、「譲渡動物とふれあえる部屋」（31.8%）が最も多く、次いで「たくさんの動物を保護できる部屋」（21.9%）、「社会見学などに対応できる施設」（16.7%）となった。

- Q7： 気軽に立ち寄れる施設とするために必要な機能として、「保護されている犬や猫とふれあえるスペース」（39.9%）が最も多く、次いで「飼育相談や、ペットのしつけ教室、体験イベント」（24.1%）となった。
- Q8： 動物との触れ合いによる効果として、「心の安らぎや癒し」（23.8%）が最も多く、次いで「孤独感の軽減」（16.0%）、「生活への張り合い・生きがい」（14.1%）が挙げられた。
- Q9： 動物保護管理センターと福祉分野との連携について、「必要性が高い」（40.0%）、「非常に必要性が高い」（20.2%）を合わせると 60.2%となり、多くの県民が連携の必要性を感じていた。
- Q10： 自由記述では、「保護された動物と気軽に触れ合える施設にしてほしい」「SNS やホームページを活用し、センターの活動をもっと広く知らせてほしい」「子どもたちが命の大切さを学べる体験型の施設にしてほしい」「保護犬・保護猫の譲渡会やイベントを定期的に開催してほしい」「地域猫活動や殺処分ゼロに向けた取組を進めてほしい」「飼い主へのマナーや終生飼養の啓発活動を充実してほしい」「県民が気軽に立ち寄り、相談できる施設になってほしい」などを望む意見が多く寄せられた。

5 結果考察・調査結果活用の方向性

本調査では、センターの「存在を知らなかった」人が約6割を占め、テレビや SNS の活用など広報強化のニーズが高い一方、「動物とのふれあい」による癒しや命の教育への効果を期待する声が多く寄せられました。また、殺処分削減や地域猫対策、適正飼養の啓発を求める声も根強く、人と動物が共生するための課題解決への期待も示されています。

以上のことから、新たな施設には、センターや動物に関する情報発信と啓発活動を土台としつつ、多様な県民が気軽に立ち寄り、動物と正しく触れ合える「共生の拠点」としての機能が求められていると考えられます。

いただいた貴重なご意見は、現在進めている新たなセンターのあり方検討会において、参考資料として反映させてまいります。